奥行臼史跡公園整備基本計画ワークショップ参加者募集について

奥行地区にある３つの時代の異なる交通歴史遺産を総合的に整備する奥行臼史跡公園整備計画を策定中です。

町民の皆さんのさまざまなご意見をいただき、この計画をより良いものにしていくため、ワークショップを開催することにしました。ぜひ参加ください。

■日時　３月４日㈯
午後１時30分から午後３時30分
■会場　生涯学習センターみなくる会議室２
■定員　20名（先着順）
■テーマ　「奥行臼史跡公園整備計画について」（仮題）
■申込方法　電話またはFAX、Eメールにてお名前と住所、連絡先をお知らせください。
■申込み・問合せ
郷土資料館　TEL・FAX75-0802
Eメールkyoudo@betsukai.jp

「別海のおたから」ワークショップと上映会のお知らせ

町内の文化財を守り生かしながら魅力あるまちづくりを目指す「別海町文化財保存活用地域計画」の策定を進めています。別海町らしさを象徴する「別海のおたから」をどのように保存、継承し活用していくのか、皆さんと一緒に考えるワークショップを開催します。

また、別海町歴史文化遺産「風蓮湖の氷下待ち網漁」を取材したテレビドキュメンタリー「映画詩・氷の中の青春」（1962年放送・大島渚監督）の上映会を行います。

■日時　２月23日（木・祝）・ワークショップ　午前10時から午前11時30分
・上映会　午後１時30分から午後３時30分
■場所　役場101・102会議室　■定員　・ワークショップ　20名（先着順）　・上映会　30名（先着順）
■内容

ワークショップ
- お話「歴史と文化のまちづくりへようこそ」　西山徳明氏（北海道大学観光学高等研究センター教授）
- 別海のおたから映像「映画詩・氷の中の青春」の一部紹介
- 意見交換　皆さんが大切に思う「別海のおたから」

別海のおたから映像上映会
- お話「風蓮湖の氷下待ち網漁について」　森川純氏（北海道新聞編集委員）
- 別海のおたから映像「映画詩・氷の中の青春」の上映
- 解説「映画詩・氷の中の青春」　福原義親氏（別海町文化財保護審議会委員）

■申込方法　電話またはFAX、Eメールにてお名前と住所、連絡先をお知らせください。
■申込み・問合せ　郷土資料館　TEL・FAX75-0802　Eメールkyoudo@betsukai.jp

旧浜中町営軌道東円線（簡易軌道茶内支線）上風蓮（開南）停留所を別海町歴史文化遺産に認定

認定

旧開南停留所

上風連開南地区にある「旧浜中町営軌道東円線（簡易軌道茶内支線）上風蓮（開南）停留所」（以下「旧開南停留所」）を、別海町歴史文化遺産に認定しました。

旧開南停留所は、1965年に浜中町営軌道東円線が延伸した際、現在の上風連開南地区に設置された簡易軌道の停留所です。

浜中町営軌道は昭和初期に開通した馬力の殖民軌道茶内線・円朱別線を1957年以降順次動力化した簡易軌道で、1962年には茶内支線（通称「東円線」）秩父内―東円朱別が動力化され、1965年には同線東円朱別から上風蓮（開南）間が町村境を越えて延伸されました。

この延伸により、簡易軌道は生乳の運搬や開南の人たちの日常の足として利用され、住民の生活向上に大きく貢献しました。しかし、開通からわずか６年後の1971年には東円線日向前から上風蓮（開南）間の運行が休止され、翌年には浜中町営軌道全線が正式に廃止されました。

旧開南停留所には、待合室とトイレの基礎部や転車台の一部が残り、転車台は地元開南の方々や有志の手によって発掘されています。

詳しくは町ホームページをご覧ください。

旧開南停留所

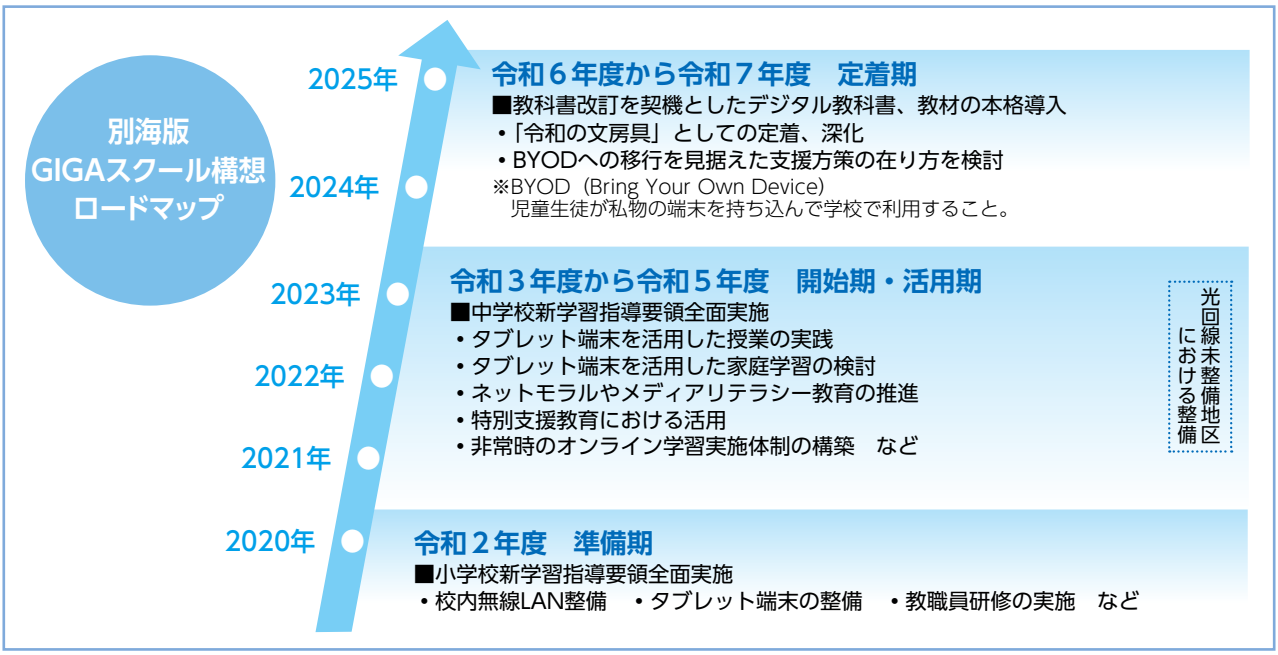
町ホームページ検索キーワード　歴史文化遺産　検索

問合せ／郷土資料館　TEL・FAX75-0802　Eメールkyodo@betsuaki.jp

「別海町歴史文化遺産」は、応募者や地域の人たちの思い入れや由来などを重視して遺産として認定するもので、申請の受付は随時行っています。詳しくは郷土資料館までお問い合わせください。

「別海版GIGAスクール構想」に基づく教育活動の推進

広報別海令和３年８月号に掲載した「別海版GIGAスクール構想」は「一人一台端末」を活用した教育活動の充実はもちろんのこと、Wi-Fi環境の整備などについての各家庭のご理解やご協力により、当初の予定を上回るペースで進んでいます。町内全ての小・中学生にタブレット端末が貸与されてからわずか２年足らずですが、コロナ禍による出席停止の際に端末を活用して自宅からリモートで授業に参加することや、端末を持ち帰って家庭学習を行うことも日常的な風景となっています。



「デジタルシティズンシップ教育」

「デジタルシティズンシップ教育」とは「デジタル機器を用いて社会に参画する善きデジタル市民になるために必要となる能力や資質を育む教育」のことを指します。欧米で普及しており、ユネスコやOECDもこの用語を使用するなど、デジタル時代の学びや生活を支えるための、いわばグローバルスタンダードとも言える考え方です。日本でもGIGAスクール構想の下、端末の家庭への持ち帰りが進められたことなどを背景に一般化しつつあります。

たとえば「刃物」を扱うことに例えると分かりやすいのですが、その扱い方を大人が寄り添って教えることで、子どもは適切にリスクを回避しながら、自分の能力を高めたり人々に役立つものを生み出すことができるようになります。デジタル機器を用いた情報に関する技術を扱うことも同様に、学校の授業や日常の家庭生活の中で、大人がしっかりと子どもに寄り添いながら導いていく必要があります。

上風連小学校と西春別小学校がリモートで実施した「複式遠隔合同授業」

全国的にも「一人一台端末」の活用は、教員の努力だけではなく保護者の皆さんのご協力の下、試行錯誤しながら進められているのが現状です。

これからの予測困難な時代を、子どもたちがデジタル機器を効果的に活用しながら「個別最適な学び」と「協働的な学び」によって生き抜く力を身につけるために、家庭においてもルールづくりやその見直しと徹底を行うなど、引き続きご協力をよろしくお願いします。

別海町教育委員会　TEL75-2111（内線3504）